

平成25年度 はつかいち環境アドバイザー養成講座実施報告

平成24年度から開催の「はつかいち環境アドバイザー養成講座」に、平成25年度は16名の申し込みがあり、全6回シリーズで講座を開講しました。講師は昨年度に引き続き、一般財団法人 広島県環境保健協会 和田秀次氏です。

幅広い年齢と、さまざまな活動をされている方が受講され、平成24年度の受講修了者にもオブザーバーとして出席していただき、情報交換の場として親睦を深めていただけるよい機会になりました。



【第1回】廿日市市の自然

(日時) 平成25年7月26日(金) 13:30～ (場所) 廿日市市役所101会議室

はじめに受講者に、自己紹介に併せて、これまでしてきた環境活動、この講座に期待することについて話していただきました。

受講者のみなさんは、家庭で取り組まれていたり、団体に所属して活動されていたりと、いろいろな活動をされており、非常に熱心な方が多いなと感じました。

平成24年度に講座を受講終了された方も集まっていただき、にぎやかに開講しました。

第1回目は、「廿日市市の自然」についての講義でした。廿日市市は、地形や風土が非常に多様な地域であり、各地域の河川の特徴や海岸の特性について説明がありました。佐伯地域には特別天然記念物であるオオサンショウウオが見られ、廿日市市の貴重な自然を守っていかねばと感じました。

また、平成24年度7月に宮島の湿地がラムサール条約に登録されたことについて説明があり、廿日市市の多様で貴重な自然環境について理解を深めていただきました。

次回は、川の生き物調べなので、集合場所と服装などの事務連絡をして、第1回目の講座を終了しました。



【第2回】川の生き物調べ

(日 時) 平成25年8月23日(金) 14:00～ (場 所) 大野市民センター、永慶寺川

当日は不安定な天候だったものの、講座中は雨が降ることもなく、川の生き物調べを行いました。

はじめに、大野市民センターにて廿日市市の河川の特徴について講義を受け、調査を行う永慶寺川は海と川の両方を行き来する回遊性魚が生息することなどについて説明していただきました。

また、日本で食されているウナギについて、産卵場所がマリアナ諸島沖であることが発見されたそうで、それにはみなさんも驚いていました。

つづいて、永慶寺川へ移動し、受講者のみなさんは網を片手に昔を思い出しながら、水生生物を捕まえていました。ウナギの幼魚も見つかり、はるばるマリアナ諸島沖からやってきたんだなあ后感慨深い思いがしました。

永慶寺川からあがると、その日に採取した生物の名前及び特徴について、(一社)広島県環境保健協会 中西先生に説明をしていただき、みなさんメモを取りながら真剣に勉強していました。

講座が終わる頃、空にはきれいな虹がかかり、みんなで眺めながら第2回の講座を終了しました。

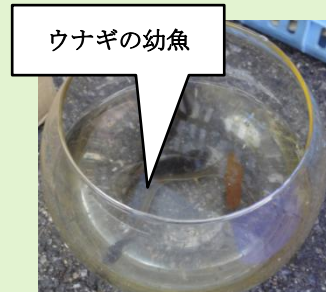


(採取した生物)

魚の仲間：ヌマチチブ、ゴクラクハゼ、マハゼ、クサフグ、ホラ、スウキゴリ、カムツ、ウギ、シイサ

水生昆虫の仲間：コオニヤマト、コホリヤマト

その他：ヌマヒ、テガヒ、イヌヒ、モズガニ、クサイガニ、クハツガニ、カニ、イマガイ



【第3回】身近な環境問題（水、ごみ）

（日 時）平成25年9月27日(金) 13:30～（場 所）廿日市市役所 7階会議室

まず、第2回 川の生き物調べのふりかえりを行いました。調査した永慶寺川下流は潮（しお）のみちひきによって水の深さが変化する「感潮域(かんちょういき)」とよばれる場所で、少しの時間でしたが汽水域を好む魚類、甲殻類、貝類などが多く見つかりました。

今回の調査での特記事項として、調査場所は規模の小さな堰ですが、遡上能力の低い魚などは、移動時の障害となっている可能性があり、魚道の設置などの改善が望まれるとのことでした。

第3回は身近な環境問題についてです。ごみや水といった、身近な問題だったため、受講者のみなさんには活発に意見交換をしていただきました。

ごみについて、分別方法などが違い回収できない場合に業者が添付するシールについて、粘着力がありすぎてゴミ袋が破れてしい再利用できないことや、市では土を回収しないことについて、マンションなどで園芸をした際にでる土はどうすればいいのかなど、ご意見をいただきました。

【第4回】地球環境問題

（日 時）平成25年10月25日(金) 13:30～（場 所）廿日市市役所 101 会議室

当初は、おおの自然観察の森での里山の植物調べを行う予定でしたが、大雨のため次回へ延期し、前倒して地球環境問題の講義を行いました。

里山のなりたちについて、里山は人が介入していたから里山が守られており、放っておくと里山は森に戻ってしまうとの説明がありました。

その中で、廿日市市の冠高原に群生するレンゲツツジが話題に上り、レンゲツツジは毒性があり牛が食べないため、かつては放牧などをすることでレンゲツツジが残り守られていたとのこと、受講生の方からは、「廿日市の財産であるレンゲツツジを守っていけるよう何か活動をしていきたい。」との意見がありました。



（レンゲツツジ）

講師の和田先生からは、赤穂のあか牛の例を挙げ、あか牛を放牧することで里山を守りながら、あか牛をブランド化して肉牛を販売し、人がうまく介入しながら守っているところもあると紹介がありました。

また、エネルギーについての講義の中で、原子力発電についての話題になり、受講生のみなさんからは、「ゼロにすべきだ。」、「国際的には原子力の考えを守らないと、防衛問題にも影響が出てくる」との記事を見た。、「原子力発電は経済とくっついているからなかなか切り離せない。」など活発な意見交換を行いました。講師の和田先生からは、選ぶのはみなさんを含む国民であり、各自がどう考えるかが大事ですと締めくくり、第4回の講座を終了しました。

【第5回】 里山の植物調べ

(日 時) 平成25年11月22日(金) 10:00~16:00

(場 所) おおの自然観察の森

第5回は、全回実施予定だったおおの自然観察の森に行ってきました。寒い日が続いていましたが、森の散策にはちょうど良い天候となりました。今回は、植物に詳しい講師の和田先生に加え、おおの自然観察の森でガイドをしている受講生の方に、は虫類や野鳥などについてガイドをしていただきながら歩き、いろいろなことを学びながらの散策は大変有意義でした。

◎モリアオガエルの池

まずモリアオガエルの池で、前年度の受講修了者吉川さんから、モリアオガエルの生態について説明をしていただきました。モリアオガエルは木の上に産卵しますが、3メートルくらいの高い木にも卵塊が見られるそうです。カエルは共鳴して鳴き、モリアオガエルは人が「コココー」と声を出すと共鳴するそうです。

◎里山の植物

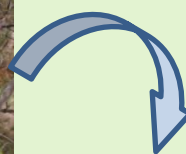
森を散策しながら、里山の植物について解説していただきました。ウラジロでつくるうさぎは、30cmくらい跳ね、子どもたちにみせたらすごく喜ぶと思いました。雨のため、10月から11月へ延期となったため、ベニマンサクの葉は散っていましたが、花が咲いていました。



ベニマンサク



ウラジロ



ウラジロうさぎへ変身！
真ん中を押さえて離すと、
びょーんと跳ねます。



◎湿地の植物

おおの自然観察の森を進んでいき、ハッチョウトンボの湿地に到着しました。湿地ならではの草花、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ及びモウセンゴケが観察できました。



ミミカキグサ



ホザキノミミカキグサ



モウセンゴケ

◎野鳥、その他生物

里山を散策していると、さまざまな野鳥に出会いました。受講者の西本さんに解説してもらい、双眼鏡をのぞいて、エナガやマガモを観察しました。歩いていると、道のわきにウグイスの巣があり、珍しいものを見ることができました。

また、観察小屋では、ニホンミツバチにも出会いました。



ニホンミツバチ



ウグイスの巣

今年度はお弁当を持参し、ゆっくりと観察ができました。受講者にはとても満足していただけたのではないかと思います。

【第6回】まとめ

(日 時) 平成25年12月20日(金) 13:30~15:30

(場 所) 廿日市市役所101会議室

いよいよ最終回となり、これまでの「まとめ」として講義がありました。

廿日市市の取り組みとして、廿日市市環境基本計画、一般廃棄物処理基本計画、新エネビジョン及び省エネビジョンについて理解を深めました。

続いて、環境アドバイザーとして活動していくにあたって、情報収集の方法や環境関係法令の調べ方などを解説していただきました。

最後に、受講修了証を授与して、はつかいち環境アドバイザー養成講座を終了しました。